

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和 7 年度 技術情報第 19 号（野菜類のハスモンヨトウ）について（送付）

野菜類のハスモンヨトウについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。



なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiaid/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。

令和 7 年度 技術情報第 19 号

10 月に入り、露地野菜や施設野菜でハスモンヨトウの発生の増加が認められます。今後も気温が高く推移することが予想されることから、被害の拡大が懸念されます。

ほ場を見回り、幼虫や被害を確認したら、下記項目 5 により防除を実施してください。

1 対象病害虫 ハスモンヨトウ

2 対象作物 野菜類（キャベツ等アブラナ科野菜、エンドウ類、ピーマン、イチゴ等）

3 予報の内容

（1）発生地域 県内全域

（2）発 生 量 多

4 発生状況及び情報の根拠

（1）10 月の巡回調査において、ハスモンヨトウ幼虫の発生ほ場率は、キャベツで 33%（平年 22%）、ダイコンで 70%（前年 31%）、ハクサイで 63%（前年 50%）、エンドウ類で 50%（平年 23%）、ピーマンで 17%（平年 8%）およびイチゴで 45%（平年 28%）と前年や平年と比べて高い（表 1）。また、キャベツ、ダイコンでは前月（9 月）より発生ほ場率が高まっている（図 1）。

（2）キャベツ、ダイコン、ハクサイおよびイチゴでは、発生程度が「中」以上のほ場も認められている（表 1）。

（3）フェロモントラップの 9 月 5 半旬から 10 月 4 半旬における雄成虫の総誘殺数は、平年並みかやや多い（図 2）。

（4）11 月の気温は高いと予想されており、本虫による被害の拡大が懸念される。

5 防除対策及び防除上注意すべき事項

（1）発生状況は、作物や各地域で異なるため、ほ場を見回り、幼虫の発生状況を確認する。

（2）若齢幼虫は集団で表皮だけを残して食害（白変葉）するので、発生の目安にする。

（3）老齢幼虫に対する農薬の効果は低いので、若齢幼虫のうちに防除する。また、防除にあたっては、ラベルをよく確認し、農薬使用基準を遵守する。

（4）ジアミド系農薬に対して感受性低下が認められる。他の使用農薬も含め、散布後の効果を確認する。

6 参考データ

表1 各作物におけるハスモンヨトウの発生状況（調査日：令和7年10月10～23日）

作物名	発生ほ場率(%)			本年発生程度別発生ほ場率(%)					総合概評	備考 (調査開始月)			
	本年	前年	平年	甚	多	中	少	無					
【 露 地 】													
キャベツ	33	25	22	0	8	8	17	67	多		9月		
ダイコン	70	31	-	20	20	10	20	30	多	*	9月		
ハクサイ	63	50	-	0	0	50	12	38	やや多	*	10月		
エンドウ類	50	75	23	0	0	0	50	50	やや多		10月		
【 施 設 】													
ピーマン	17	6	8	0	0	0	17	83	やや多		10月		
イチゴ	45	36	28	0	0	9	36	55	多		10月		

*ダイコンは令和5年度から、ハクサイは令和6年度から調査のため、前年比による概評を記載

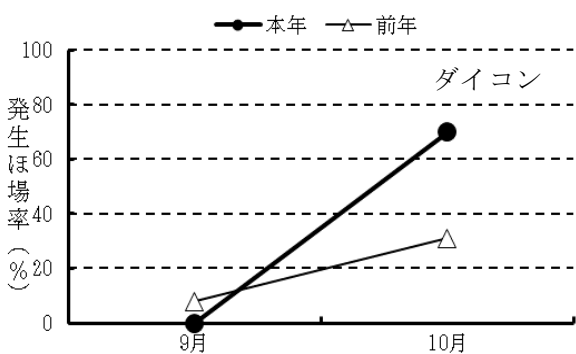
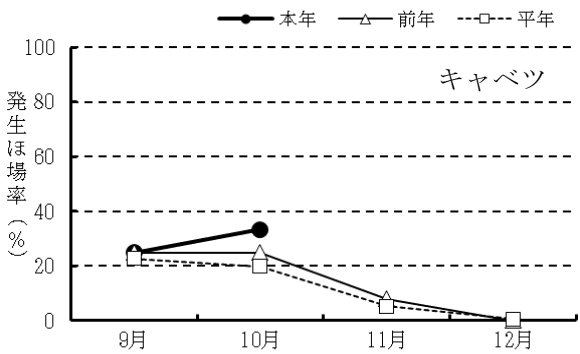


図1 ハスモンヨトウの発生ほ場率の推移

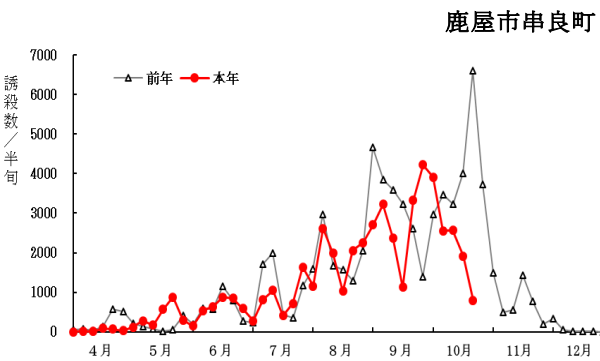
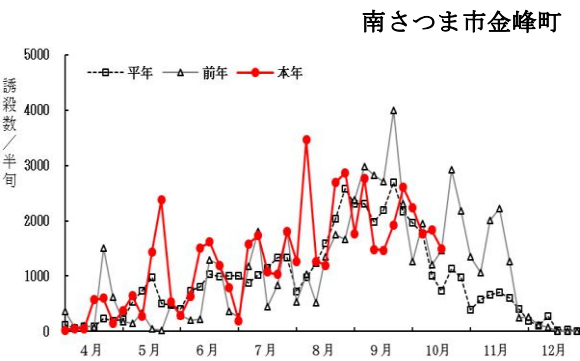


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況（令和7年度10月28日現在）

※鹿屋市串良町は令和6年度から調査

(参考) キャベツでのハスモンヨトウに対する主な登録農薬 (令和7年10月28日現在)

農薬名	RACコード	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	使用回数
トクチオン乳剤	1B	散布	1,000倍	収穫21日前まで	100-300L/10a	2回以内
ディアナSC	5	散布	2,500-5,000倍	収穫前日まで	100-300L/10a	2回以内
		無人航空機による散布	48倍		1.6-3.2L/10a	
			96倍		3.2L/10a	
アフーム乳剤	6	散布	1,000-2,000倍	収穫前日まで	100-300L/10a	3回以内
			4倍		0.8L/10a	
		無人航空機による散布	8倍		1.6L/10a	
			16倍		3.2L/10a	
コテツフロアブル	13	散布	2,000倍	収穫前日まで	100-300L/10a	2回以内
マッチ乳剤	15	散布	3,000倍	収穫7日前まで	100-300L/10a	3回以内
トルネードエースDF	22A	散布	1,000-2,000倍	収穫7日前まで	100-300L/10a	2回以内
		無人航空機による散布	10倍		1-2L/10a	
アクセルフロアブル	22B	散布	1,000-2,000倍	収穫前日まで	100-300L/10a	3回以内
			8倍		1.6L/10a	
		無人航空機による散布	10倍		2L/10a	
			16倍		3.2L/10a	
プロフレアSC	30	散布	2,000-4,000倍	収穫前日まで	100-300L/10a	3回以内
グレーシア乳剤 ¹⁾	30	散布	2,000-3,000倍	収穫7日前まで	100-300L/10a	2回以内

注 1) 結球あぶらな科葉菜類での登録